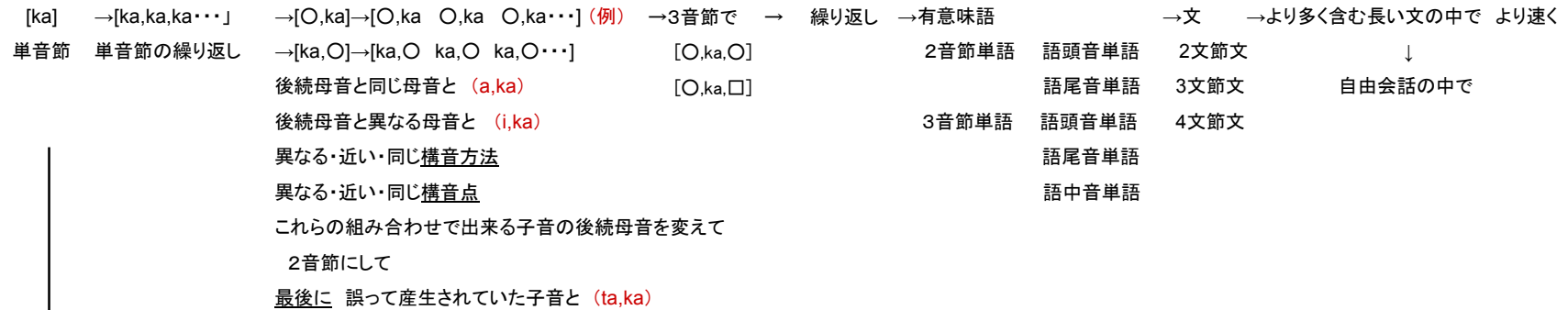


構音指導の進め方 [ta]に誤っている[kɑ]の指導を例に

[kɑ]音素

↓



[kɑ] 後続母音を変える

[kw]

指導のターゲット音は一つ

新しい指導音の導入は、指導中の音が
少なくとも単語レベルで安定し出してから

- 各課題の中で子どもにとって易→難へ段階的な指導を
- 視覚的な助け 有り→無しへ (自発や暗唱より音読のほうが容易)
 - 聴覚的なモデル 有り→無しへ (呼称「これなあに」より復唱「真似してね」)
 - 意識化の工夫 目印等有り→無しへ (のほうが容易)
 - 例) 単語の復唱→音読→呼称
 - マーカーが入った文の音読→マーカーが無い文の音読→復唱→暗唱
 - スピード ゆっくり→速く
 - 繰り返しや 音・文節・文の数 少ない→多く

指導の方向

波及効果により 指導は次第に容易になる。
効率のよい指導計画を。
安定して正しく出ていることを確認しつつ 先に進める。
誤りが生じたら 1段階前に戻って安定を得てから

ステップを進める条件:
誤って産生していた音との出し分けと、
誤って産生していた音とターゲットの音との正誤弁別が確実に出来ること
自己修正が無理なく出来ること

↓
関連する他の音入